

▼西南戦争の際に使用されたと見られる刀。



思わぬ逸品も

時代を越え

眠りから覚めた“証人”たち

町としても、貴重な文化財が失われている現状を打開するため、大学関係者や文化庁、各機関からの応援職員と協働して文化財の保護や救出にあたっていますが、国や県指定の文化財が優先されることが多く、町指定の文化財やその他のものにまで保護や救出の手が及ぶのは難しいのが現状です。

「益城の歴史遺産を守る会」は、町と協働し、町の文化財や歴史遺産に主として焦点を当て、救出活動を行っています。現在は、歴史的価値を持ちながらも解体されてしまう建物の調査・記

録、古文書・古道具・古書籍などの整理・記録・保管のほか、被災した文化財の散逸防止などを行っています。また、レスキューする中で、町でも把握していなかった新たな発見などがあったり、一見すると価値がないように見える民具などの歴史的価値が見出されたりしています。

以前から何気なく家に保管されていた物も、再びその存在が確認されたとき、町の歴史や成り立ちをうかがい知ることのできる貴重な“証人”となるのです。

驚きの発見

依頼者の声

今回文化財レスキューを依頼した

Aさん

今回、文化財レスキューの方々にご協力いただいたことで、私たちでも把握していないような古い民具や書籍などが見つかって、非常に驚きました。

また、蔵や家の中に、そういったものがかくつか眠っていたのは知っていましたが、家の片付けなどに追われ、なかなかそこまでたどり着くことができませんでした。

先祖代々守り継いできたものを早く救出したいという気持ちがありつつも、すぐには取り掛かることができずモヤモヤとした気持ちでしたが、レスキューの方々にお手伝いいただき、救出することができたので、少し心がホッとしました。本当に感謝しています。

◀依頼者が所有する蔵の奥にしまわれていた男性用と思われる駕籠。依頼者もその存在を知らなかった。

続々と收藏される古道具や巻物の数々。もともと保管してあった蔵などが被災したケースでは、町が場所を確保し厳重に保管している。



ご依頼・ご連絡はこちら

生涯学習課生涯学習係
(交流情報センター ミナテラス内)
☎ 286 - 3337